奨励賞（神奈川県立青少年センター館長賞）

魔法修得のススメ

横浜市立義務教育学校霧が丘学園　９年　竹田（たけだ）　汐李（しおり）

「ありがとうは人を笑顔にする魔法の言葉だ」――これは、多くの人にとって聞き覚えのある言葉なのではないでしょうか。誰しも人から感謝されて、程度は違えど満たされた気分になった経験はあるはずです。確かにこれは間違いではないと思います。しかし、私はこの言葉の、あたかも「ありがとう」の一言は、「誰でも」、「最初から」、非常に「簡単に」伝えられるかのような言い方に疑問を覚えます。なぜなら、感謝の言葉が魔法なのだとすれば、それは「修行」をしなければ使いこなすことができないからです。そこで、「感謝の言葉は魔法」だという事を前提に、そのような比喩的表現と感謝の伝え方について、自分なりに考察してみました。

私は「ありがとう」の一言を伝えるには「修行」が必要だと述べましたが、その「修行」を自分からしよう、つまり積極的に感謝を伝えていこう、という意識を強く持っている人は、多くはないと感じています。しかし、私達は日常的に様々な場面で感謝を表します。例えば、人から親切にしてもらった時や、褒めてもらった時。人が良い行いをしているのを見た時に、称賛の意味を込めて。そのような時には、「ありがとう」は割と簡単に出てくることがありますが、それは何故でしょうか。私が考えた理由は二つあります。一つは、その感謝は魔法ではない、即ち人に笑顔を与える力を持っていないから、というものです。そしてもう一つ、その人は数多の「修行」をこなしてきたベテランであるから、というものもあります。だとすれば、その人は尊敬すべき人だと思います。前者の場合は、もしかすると「修行」が必要なのかもしれません。

さて、その「修行」ですが、私は以前に、それについて考えさせられる経験をしたことがあります。それは、バスに乗っていた時でした。乗客の一人が降車する時に運転手の方に、

「ありがとうございました。」

と言っているところを見かけたのです。その乗客の一言を傍から聞いていた私でさえ何となく良い気分になったのだから、運転手の方の心もきっと暖まったはずです。その後、私も同じことを言ってみようと試みましたが、一言が、喉につかえて出てこなかったことを覚えています。自分の未熟さを痛感するとともに、数刻前の、どこの誰とも知れない人への尊敬の念は、否定できませんでした。

堂々と感謝を声にできるあの人は、きっとたくさん「修行」を重ねてきたのだなと思いましたが、具体的には一体どうやって「修行」を積めばよいのでしょうか。ここでまた魔法の話に戻ります。小説などで目にする魔法にも、空を飛ぶものや薬を作るもの、時空を操るものなど様々な種類があります。そして物語の登場人物たちは、そのような魔法を、それぞれの方法で、思いを込めて練習し、自分のものとします。私は思うのです。感謝を伝えることも、それと似ているのだと。様々な場面で、それぞれの相手に「伝える」という意識を持って。相手の気持ちを惟みて、受け取った末に出てきた「ありがとう」が伝わり、相手の心に届く。その時初めて嘘偽りのない、心からの感謝というものが成立するのではないでしょうか。ここで、相手の心も自分の心も暖め、そこに笑顔が生まれる幸福感。それを作るもととなった「ありがとう」を、私達は「魔法」と呼ぶのだと思います。それは相手がいないと成立しないけれど、紛れもなく自分自身の「修行」で生み出されたものです。だからその先も、自身の自己肯定感を上げ、自分を陰で優しく、確かな強さで支えてくれるのではないでしょうか。

もし、この地球が、感謝の「魔法」を使いこなす人で溢れたなら、この世界は、もう少し平和になるかもしれません。人を深く思いやること、誰にでも心を込めて感謝を「伝える」こと。そしてそれを続けること。今一度、自分の感謝の伝え方を振り返ってみて、課題を感じたのならば、感謝の「修行」に励んでみることを提案します。あなたも今日から、「魔法修得」を目指し、世界を変えていきませんか。

最後まで読んでくださり、

「ありがとうございました。」